

世羅台地で見られる生きものたち。

ため池

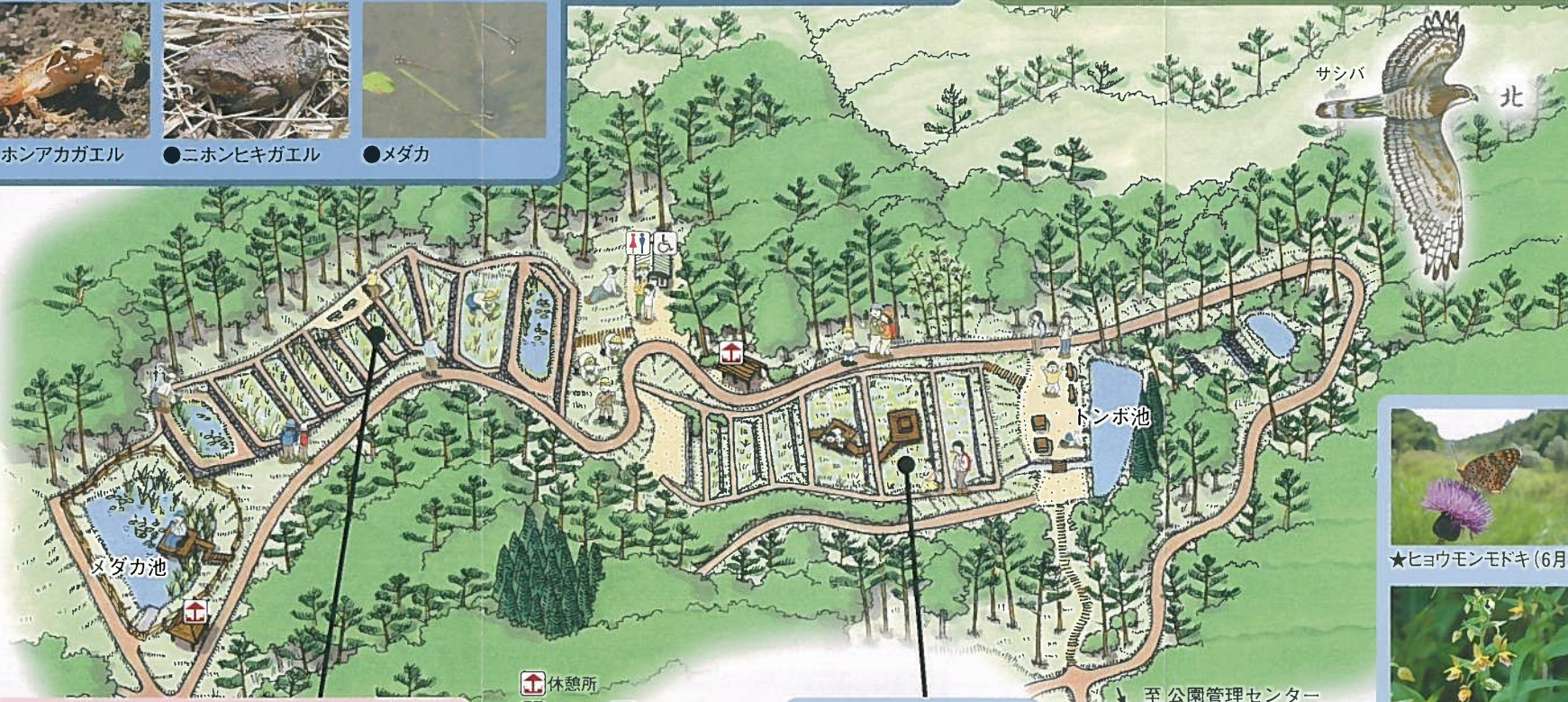
田んぼの水源として、古くから人々はため池をつくって利用してきました。ため池は多くの生きものが成育場所や繁殖場所として利用しており、世羅台地の自然を特徴づけています。園内には5つのため池がありますが、水深に変化を持たせ、また山とのつながりを確保することで、多様な動植物が生育・生息できるようにしています。



●オグラコウホネ(花7月) ●コウホネ(花7月) ●ヒメコウホネ(花7月) ●ヤマトミクリ(花7月) ●イトモ



●ニホンアカガエル ●ニホンヒキガエル ●メダカ



休養所
トイレ
車椅子用トイレ

湿生花園・田んぼ観察園

田んぼには多くの生きものが暮らしています。昔の田んぼは「ひよせ」と呼ばれる小さな水路に冬場も水がたまっており、水生昆虫の越冬場所、カエルやカスミサンショウウオの産卵場所となっています。ここでは、様々な田んぼの生きものや、湿生植物の美しさを楽しむ環境づくりを目指しています。



●ノハナショウブ(花7月) ●サワギキョウ(花9月) ★サクラバハノキ ●カスミサンショウウオ

樹林地・畦(あぜ)

古くから人々は生活に必要な燃料や肥料、牛馬の飼料として山林や畦畔から薪や落ち葉、刈草を採取し利用してきました。こうした人々の営みが、明るい林床や草地を維持し、多様な動植物を育ててきました。園内でも定期的に草刈りなどを行っています。



●ノアザミ(花6月) ●キシツツジ(花5月) ●キキョウ(花8月) ●ワレモコウ(花9月) ★ゴマシジミ(9月)



●コバノミツバツツジ(花4月)



●カブトムシ(7月)



★ヒョウモンモドキ(6月) ●キセルアザミ(花9月)



●カキラン(花6月) ●ハッチョウトンボ(7月)

湿地(湿原)

世羅台地の湿地は、栄養豊富な水がしみ出ている浅い谷間の緩やかな傾斜地に広がっています。サギソウやモウセンゴケなど特有の植生が発達し、絶滅が心配される“湿地の蝶”ヒョウモンモドキも生育しています。園内の湿地植生は、世羅台地内の消えつつある湿地から少量ずつ移植してきたもので、多様な湿地の動植物を保全・育成することを目指しています。



●サギソウ(花8月) ●モウセンゴケ(花7月) ●ムラサキミカゲサ(花9月) ●ホザクノミカゲサ(花9月) ●ミミカゲサ(花9月)

●：園内で生育・生息が確認されている生きもの。 ★：将来的に園内での生育・生息を目指す生きもの。